

○小学校国語<並木小学校>

- 国語A(主として知識)について、児童の平均正答率が県71.5%, 全国70.0%とほぼ同じである。説明文の書き方の工夫について、学習内容をおおむね身につけている。しかし、漢字の書き取り、文法(主語と述語の関係等)の理解に課題がある。
- 国語B(主として活用)について、児童の平均正答率が県64.5%, 全国65.4%を上回っている。しかし、目的や意図に応じ、取材した内容を整理しながら記事を書くことができる児童は、(全国平均を大きく上回っているが)半数以下である。

○課題等

話すこと・聞くこと

- ◇(A) 話の内容に対する聞き方を工夫することができる。

書くこと

- ◇(A) 説明文の書き方の工夫として、具体的な事例を挙げて説明するとわかりやすいことをほとんどの児童が理解している。
- ◇(B) 目的に応じ、文章の内容を的確に押さえながら要旨をとらえ、記述することができる。
- ◆(B) 目的や意図に応じ、新聞の割り付けをしたり、取材した内容を整理しながら記事を書いたりすることに課題がある。

読むこと

- ◇(A) 物語を読み、登場人物の相互関係を捉え、内容を読み取ることができる。
- ◆(A) 作品募集の案内等から必要な情報を読み取ることやや課題がある。
- ◇(B) 文章と図とを関係付けて、自分の考えを表現することができる。
- ◇(B) 物語の場面の移り変わりを捉え、音読する時の工夫とその理由を説明することができる。

伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項

- ◆(A) 漢字を正しく読んだり、書いたりすることに大きな課題がある。無回答率が高く、一部を思い出せないのではなく、全くわからない児童が多い。
- ◆(A) 文を構成する主語と述語との関係を捉えることに課題がある。

◇…相当数の児童ができています点 ◆…課題のある点 () の記号は、A=国語A、B=国語B

○指導改善のポイント

話すこと・聞くこと

- 国語科だけでなく、すべての教科指導、教育活動の中で自分の考えを説明したり、友だちの考えを聞いたりする活動を意図的に取り入れる。
- わかりやすく説明する方法やよい聞き方のポイントについて、「並木小スタンダード」として学校全体で低学年から指導していく。

書くこと

- 国語科だけでなく、社会科や総合的な学習等の中で、目的や意図に応じて取材したり、調べたりする活動を取り入れる。さらに記事にまとめる時には、調べたことをただ羅列するのではなく、目的に応じて取捨選択し、整理しながら書かせるように指導する。

読むこと

- 物語や説明文だけでなく、新聞記事や日常生活で目にするパンフレットや募集案内などを学習に取り入れ、内容を読み取らせる。そして、それぞれの文書の書式の特徴やよさに気づかせるようにする。
- 朝の読書の時間や図書室の利用時間などを充実させ、読書の機会を多くしていく。また、読書が苦手な児童には、読み聞かせボランティアが読んでくれた本を教室に置いて、自分でも読ませるなど、読書への抵抗を少なくする工夫をする。また、教科書で学習した作品の同じ作家の本を教室に置くなどの工夫をする。
- 文章の内容を正しく読み取る指導とともに、ワークテストなどで聞かれていることに的確に答える指導をする。例えば、「文章を正確に書き抜く」「どうして…？」のように理由を尋ねられたら、文末を「…から」、「どんなこと？」と尋ねられたら、文末を「…こと」というように答えるなど、低学年の頃から意識して取り組ませる。

伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項

- 新出漢字の読み・書きの指導を高学年でも丁寧に行う。また、朝学習や家庭学習などを利用して、反復練習を行う。LD傾向のある児童など、反復練習が効果的でない児童もいるので、漢字を分解して書き方を声に出して練習するなど、練習方法を工夫する。
- 漢字小テストなどを継続的に実施し、意欲を持たせるようにする。
- 国語科だけでなく、いろいろな学習の中で習った漢字を使って書く習慣をつける。また、未習であっても機会をとらえて、新しい漢字の読み方を指導することも効果的である。
- 主語や述語など文法については、国語の「ことばの学習」の時にだけ指導するのではなく、物語や説明文の学習の時に「主語はどこか？」「修飾している言葉は何か？」など意図的に考えさせ、理解を深めるようにする。

○小学校算数<並木小学校>

- 算数A(主として知識)について、本校の平均正答率が県74.7%, 全国75.2%とほぼ同じである。2つの数量の関係をとらえたり、グラフを読み取ったりする数量についての知識・理解をおおむね身につけている。しかし、角の大きさを見当ついたり、分度器を読み取ったりする数量についての技能に課題がある。
- 算数B(主として活用)について、児童の平均正答率が県45.1%, 全国45.0%を下回っている。日常生活の事象を観察したり、情報を解釈したりして、判断の理由を言葉や式を用いて数学的に表現することに課題がある。

○課題等

数と計算

- ◇ (A) 整数・分数の四則計算は全体的に多くの児童ができている。
- ◆ (A) 小数の計算の結果の見当をつけたり、末尾の位のそろっていない計算をしたりすることに課題がある。
- ◆ (B) 四捨五入した概数で計算したり、概数を用いた見積もりの結果とそれに基づく判断を理解し、判断の理由を言葉で表現したりすることに課題がある。

量と測定

- ◆ (A) 日常生活の中で必要となる時刻を求めることに課題がある。
- ◆ (A) 角の大きさの見当をつけたり、分度器を用いて 180° よりも大きい角の大きさをもとめたりすることに課題がある。

図形

- ◇ (A) 基本的な平面図形の性質については、ほぼ理解できている。
- ◆ (A) 見取り図と展開図を関連付けて、立体図形の辺や面の位置関係を理解することに課題がある。

数量関係

- ◇ (A) グラフに表されている事柄を読み取ったり、式で表現された2つの数量関係を理解したりすることができる児童が多い。
- ◆ (B) 割合について示された情報を正しく読み取り、比較量と割合から基準量を求めることに課題がある。
- ◆ (B) 割合についての考え方の誤りを指摘し、正しい求め方と答え方を記述することに課題がある。

その他

- ◆ 問題形式が選択式であっても記述式であっても、全国平均に比べ、本校の無回答率が高い。自信がないとすぐ回答をあきらめる傾向が見られる。

○指導改善のポイント

数と計算

- 四則計算については、計算の技能を身につけさせることはもちろんであるが、計算する前に答えのおよその見当をつける習慣を身につけさせることが必要である。また、文章題では、導き出した答えの数値を日常生活の常識と照らし合わせて、正しいか判断する習慣も身につけさせたい。
- 日常生活に関連して、数学的に考察する活動を意識的に取り入れる必要がある。日常の事象を観察し、その中から必要な情報を用いて、判断の理由を友だちに説明したり、文章で表現したりする活動を充実させる。

量と測定

- 算数科だけでなく日常生活の中で常に、時間を意識させたり、必要な時刻を求めさせたりする活動を意図的に取り入れることが必要である。
- 長さや角の大きさの感覚を身につけさせ、およその見当をつけることができるようにする。そのためには、長さや角度を測定したり、作図をしたりする算数的活動を積極的に取り入れる。また、長さや角度を測定する前におよその見当をつける習慣を身につけさせる。
- 形式的に面積を求める公式を教えるのではなく、公式をつくり出す過程を理解できるようにする必要がある。そのためには、既習の求積可能な図形を、求める図形と対応させる活動が必要である。実際に図形を切り取って作業したり、作図をしたりして解決方法を見つけさせるようにしていく。

図形

- 平面図形を観察して見出したことを、記号に表したり、文章で表現したりする活動を取り入れ、図形の性質について筋道立てて考えられるようにする。
- 立体の展開図を描いたり、実際に組み立てたりする活動を取り入れ、辺や面の位置関係を理解させる。

数量関係

- 日常の場面において、割合の考えを用いて比べるよさを理解できるようにする必要がある。指導に当たっては、ただ計算の仕方を教えるのではなく、線分図等を用いて、量で比べる場合と割合で比べる場合の違いを明らかにし、どちらで比べる方が適切であるかを考えさせる活動を取り入れる。そして、目的に応じて、2つの方法を適切に使い分けられるようにすることが大切である。
- 算数科だけでなく、理科や社会科等の学習でも、帯グラフや円グラフ等資料の読み取りをする中で、割合で比べるよさに気づかせていく必要がある。

○小学校理科<並木小学校>

- 主として知識について、児童の平均正答率が県62.3%、全国61.3%とほぼ同じである。自然事象についての知識・理解は、学習内容を身につけている。観察・実験の技能については、顕微鏡の適切な操作方法と実験器具の名称の理解に課題がある。
- 主として活用について、児童の平均正答率が県61.6%、全国60.5%を上回っている。科学的な思考・表現について、学習内容をほぼ身につけている。しかし、全国平均を上回るものの、水溶液の学習で水の温度と物質が溶ける量との関係のグラフから析出する物質の量を分析するなど、グラフを基に考察し、説明できる児童は全体の3割程度である。また、電磁石と磁石の性質を理解し、活用することに課題がある。

○課題等

A区分 物質

- ◇水蒸気は水が気体になったものであることを理解している。
- ◆メスシリンダーの名称を理解できていない。
- ◆水の温度と物質が溶ける量との関係のグラフから析出する物質の量を分析するなど、グラフを基に考察し、説明することに課題がある。

A区分 エネルギー

- ◇振り子時計の調整の仕方を調べるための実験について、条件を制御しながら構想することができる。
- ◆電磁石と磁石の同極が退け合う性質を振り子が左右に振れる仕組みに適用する方法を思考し、表現することに課題がある。

B区分 生命

- ◇生物の成長に必要な養分のとり方について調べた結果を、視点をもって考察して分析することができる。
- ◆メダカの雌雄を見分ける方法を理解できていない。
- ◆顕微鏡の名称は7割の児童が理解しているが、適切な操作方法を身につけている児童は3割未満である。

B区分 地球

- ◇月は1日のうち時刻によって形は変わらないが、位置が変わることを理解している。
- ◇星座や雲の動きについて、観察記録を基に考察して分析できる。

◇…相当数の児童ができている点 ◆…課題のある点

○指導改善のポイント

A区分 物質

- 実験器具の名称や正しい使い方について、丁寧に指導する。また、一人一実験、または二人一実験できる場を設定し、実験方法を単なる知識としてではなく、技能として身につけさせるようにする。
- 実験の結果を表やグラフにまとめたり、表やグラフの示す事象を読み取ったりする活動を取り入れる。また、読み取った事象を言葉で伝える活動も意図的に取り入れる。

A区分 エネルギー

- 電磁石の性質について、実験してわかったことをまとめるだけでなく、日常生活のどんなところで活用されているか、また、活用することができるかなど、発展的に考えさせる学習にも意欲的に取り組む。

B区分 生命

- メダカの雌雄の見分け方を単に教科書で学ぶのではなく、実際のメダカで見分ける活動を取り入れ、理解を深める。
- 顕微鏡の操作については、一人一台、または二人一台程度が使えるように場を設定し、一人ひとりが実際に顕微鏡に触れる機会を多くする。

B区分 地球

- 太陽や月、星座の動き等を観察した事実を知識として理解するだけでなく、その知識を活用して情報を考察したり、分析させたりする活動を取り入れる。発展的に考えさせる学習にも意図的に取り組ませる。

児童質問紙から見えてくる並木っ子児童像

平成27年4月21日実施

○ほとんどの児童が朝食をほぼ毎日食べている。これは、全国・県の平均とほぼ同じである。しかし、一方で「全く食べていない」児童の割合が全国・県の平均の約3倍いる。

○**ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがありますか**

難しいことでも、失敗を恐れずに挑戦していますか

自分には、よいところがあると思いますか

上の質問に対し、「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した児童の割合は、それぞれ全国・県の平均を上回っている。特に自分には、よいところがあると思っている児童の割合は、全国平均を約7ポイント上回っており、自己肯定感の高さが伺える。

○**平日に学校以外でどのくらい勉強しているか**の質問に対し、「3時間以上」と回答した児童の割合は、全国・県の平均を3ポイント以上、上回っている一方、「1時間以下」と回答した児童の割合の合計は、10ポイント以上多い。塾などで学習している児童が多い一方、ほとんど学習していない児童も多く、家庭学習が全児童に定着していないことが考えられる。

家で、学校の宿題をしているかの質問に対しては、ほとんどの児童が「している」「どちらかといえばしている」と回答し、「全くしていない」と回答した児童はいなかった。

家で学校の授業の復習をしているかの質問に対しては、「している」「どちらかといえばしている」と回答した児童の割合が全国の平均を約7ポイント下回っている。また、全く復習をしていない児童の割合は、全国の平均を約4ポイント上回っている。

前の質問の回答と併せて考えると、塾に行って学習する以外の家庭での学習は、宿題のみという児童が多いと推察できる。

○学校に行くのは楽しいと思っている児童（そう思う、どちらかといえばそう思う）は、全国・県平均とほぼ同じである。

○**地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがあるか**の質問に対し、「どちらかといえば、当てはまらない」「当てはまらない」と回答した児童の割合は、全国・県の平均を約9ポイント上回っている。地域や社会に目を向けて生活している児童は少なく、今、学習していることと日常生活が結びついていないことが考えられる。

○新聞をほぼ毎日読んでいる児童の割合は、全国・県の平均の約半分である。一方、テレビのニュース番組をよく見る児童の割合は、全国の平均を約10ポイント、県の平均を約3ポイント上回っている。新聞を読む児童は少なく、世の中の情報を主にテレビから得ていることがわかる。

- 授業の中でわからないことがあったらどうするか**の質問に対し、「その場で先生に尋ねる」と回答した児童の割合は、全国・県の平均の約3分の1である。授業の中で、「わからない」と言えない児童が多いことがわかる。
- 算数の勉強が好きでないと回答した児童の割合は、全国の平均を6ポイント、県の平均を約4ポイント上回っている。しかし、算数の勉強が大切だと考えている児童の割合は、全国・県の平均を上回り、大切でないと回答した児童はいなかった。
- 算数の授業で新しい問題に出合ったとき、それを解いてみたいと思うか**の質問に対し、「どちらかといえば思わない」「思わない」と回答した児童の割合は、全国の平均を約10ポイント、県の平均を約7ポイント上回っている。算数の授業の導入で学習する意欲が高まっていない児童が多いことがわかる。
- 算数の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考えるか**の質問に対し、「どちらかといえば考えない」「考えない」と回答した児童の割合は、全国の平均を約8ポイント、県の平均を約9ポイント上回っている。学校で学習したことが、日常生活の中で活用できていないことが伺える。
- 今回の学力検査の算数の記述の問題で、「全ての書く問題で最後まで解答を書こうと努力した」と回答した児童の割合は、全国の平均を約8ポイント、県の平均を約10ポイント上回っている。また、「全く解答しなかった」と回答した児童はいなかった。しかし、実際の学力検査の取り組み状況を見ると、記述式の問題の本校の無回答率は高く、全国・県の平均を約5～8ポイント上回っている。

○比較的、自己肯定感が高い。自分のよいところを周囲に認められている安心感を持って生活している児童が多い。

○宿題など、やらなければいけないことにまじめに取り組むことができる。

●学習に対する意欲はあまり高くなく、受身で学習している様子が伺える。そのため、家庭学習に意欲的に取り組んだり、わからないことを進んで質問したりすることが少ない。

●学習していることが机上だけのものになっており、日常生活とうまく結びつけて活用することができていない。

並木っ子の主体的に学ぶ力を伸ばすために



～家庭で できること～



家族の集まる場所やテレビの近くに地球儀や地図を置いてみましょう

家族でテレビのニュースやドキュメンタリーを見ていて日本や外国の地名が出てきた時には、地図や地球儀で場所を調べてみましょう。家族みんなで、わいわい言いながら探してみるとよいですね。それだけでなく、社会の出来事に興味を持てるようにテレビや新聞のニュースを話題にしてみたり、クイズ番組の問題に家族で答えたり、漢字を書いたりするなど意図的に子どもに声かけをしてみましょう。子どもがのってこない場合もありますので、無理強いすることは、ありませんが、一緒に楽しんで学ぶと記憶にも残りやすいようです。



子どもにいろいろな仕事をさせましょう

お米をといたり、おふろのそうじをしたり、買い物をしたりという家庭での仕事の中にも学ぶことがいっぱいあります。「お米をといだ時にでる白い水って何だろう?」「おふろのよごれを上手に落とすにはどうしたらよいのかな?」「〇〇と△△を買うために、いくらぐらいお金を持っていったらよいだろう?」などなど、学校で学んだことと生活経験を結びつけるチャンスが仕事の中にたくさん転がっています。

算数のワークテストを採点しているとよく珍解答に出会います。

○人の歩く速さが時速40km ○弟の体重が250kg ○ノート1冊の金額が1500円等々

日常生活を送る中で、常識としてとらえられるようになってほしい大きさや重さ、金額などがあります。問題を解く時に常識から解答のおよその大きさの見通しを持てるようになるとケアレスミスも少なくなります。生活経験を豊かにするとともに、いろいろなことに気づかせる意図的な声かけをしましょう。

「継続は力なり」1年生から家庭学習の習慣をつけましょう

学校の授業をどんなに一生懸命受けていても、学習が定着するためには、家庭での復習が欠かせません。今、学校では子どもたちが主体的に学ぶ力をつけられるよう「問題解決型」の学習に取り組んでいます。教師が一方向的に知識を教え込むのではなく、子どもたち一人一人に考えさせる授業を心がけています。しかし、それだけではどうしても、漢字や計算など基礎的な力をつけるための練習時間が不足してしまいます。家庭学習は、**学年×10分間**くらいできるとよいと言われています。1年生なら1日10分間、6年生なら1日1時間が目安です。習慣がつくまでは、少し大変かもしれませんが、最初は、学校から出される宿題を確実にやることから始めましょう。毎日、短い時間でも机に向かう習慣がつけば、しめたものです。低学年なら、子ども部屋ではなく、おうちの方が家事をしている台所の近くなど、食卓で学習させることも効果的です。今からでも遅くはありません。ぜひ、取り組んでみてください。

